

千葉県ユニセフ協会役員懇談会

2024年7月26日

意見交換会（発言順・敬称略）

福本：ロゴマーク、缶バッジの紹介説明

「20周年のつどい」のプログラム、つどい後の懇談会の説明

俣木：ポッチャは初めてでしたが面白いゲーム。当日は盛り上げていきたい。

首藤：つどいで楽しめたらよい。20年の取り組みを広く知って頂きたい。今までのご協力に感謝。

黒坂：ポッチャは身障者のために考えられたスポーツ。当日はできたら身障者の方も招いて共にゲームが出来たらよい。

鈴木：20周年のあゆみを写真も含めてまとめて欲しい。

吉田：ポッチャは初体験で、フォームから勉強して当日は臨みたい。安全で皆で楽しめる事がわかった。

片平：ボーイスカウトとしてユニセフ活動、募金活動はプログラムとして継続的に進めたい。

街頭で(募金活動をしている)ボーイスカウトを見かけたら、声掛け、協力をお願いしたい。

小林：子ども達からのメッセージを楽しみにしている。

佐々木：一人一人の力は小さいが皆と力を合わせて、ユニセフの活動に協力して子ども達の笑顔が見られたらと思う。

染谷光：近所の幼稚園の子ども達の声から力をもらっている。

ポッチャはルールがわからないながら楽しめた。

若い人の会話(声)が伝わるように配慮して欲しい。

中元：ポッチャは、よい大人が笑いながら、一つになり盛り上がり楽しんでいるのを見て驚いた。

障がい者でも健常者でも人が繋がる、これこそ20周年の良い企画。

ブランディングという事ではユニセフの力は凄いので、20周年では「ユニセフ」という事をそんなに尊重しなくてもよいのではないか。ポッチャのような事で人とのつながりを広げていくのを大切に。

津田：ポッチャは老若男女問わず、多くの人が楽しめて良い。

今回のつどいでもいろいろの年代の方が集まられると良いと思う。

小倉：子ども達の健やかな成長を願って活動しているユニセフとしては、誰ひとり取り残さないような大人から子どもまで一つのフィールドでできるゲームで良い。お互いを認め合ってできる20周年の良い企画。

染谷芳：ポッチャは分かり易く簡単で、安全、距離が近くなり、輪が広がるのが良い

赤いボールがミートボールに見える。

中田：ポッチャはシンプルだが奥が深い。我々の各店舗でも各年代の方の笑顔を増やしていけたら。

神谷：ロゴ(缶バッジ)は大変良いので、20周年に関わらずズート使用しては。

ユニセフの活動を県内各地のイベントと連携してはどうか。

媒体として協力できることがあれば協力する。

山口：ボッチャは誰でも参加できる事が実感できた。

良いロゴなので長いスパンで使用を。

会場に世界の子ども達の状況を知ることのできるポスターなどを展示しては。

林：明日からオリンピック、パラリンピックが始まるが是非パラリンピックの応援を。

綱島：オリンピック、パラリンピックをNHKで見て下さい。

コロナでリアルに参加する事が減っている。県内でも伝統芸能、文化が廃止、休止になっているところが多くあり、再開することが大事。つどいを通してリアルに参加し、体験し感動が生まれ笑顔や喜びが生まれる。

島田：ボッチャは垣根がなくよい、もう少し上手くできると思った。

メッセージを発信できると良いと思う

幸内：小学校の時のユニセフ募金で世界があることを認識した。活動を知る事で眼を開かせる。

色々な年代を巻き込めるボッチャは良い。

生嶋：ボッチャは頭脳プレイである。当日は盛り上がるのでは。

尼崎：創立時の思いを改めて、あじあうのは大切なこと、あゆみを知ること自分たちが出来る事がわかる。

寺井：ボッチャをしながら世界の子ども達の事を知るのは良い。

やはり負けると悔しいので当日、会場に事前にこそっと練習できるコートがあるといい。

宮崎：事前に初心者用ボッチャのルールブックを見たら、6人対6人で一人1球投げるというのがあった。今日のより、こちらの方が責任が重くなり、どう投げるか皆で作戦を立て、チーム内のコミュニケーションが良くなると思う。

早水：役員の皆さまの出席の多さに感謝し、感銘を受けている。

子どもの声に耳を傾けて、意見を聞くことは大事。

子ども真ん中社会にすること。